

# 白藍塾オリジナル

## 2026年度 入試小論文分析&解答のヒント

2026年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ● 早稲田・スポーツ科学部

今年度の課題は、「競い合うことの善悪」について自分の考えを述べることが求められている。

昨年度に比べるとテーマが明快で、意図のわかりやすい問題になっている。スポーツと関係なく、自由に論じてよい問題ではあるが、スポーツと結びつけて考えるほうが論点が絞れて論じやすいのは確かだ。

ストレートに「競い合うことは善いか悪いか」を問題提起した上で、スポーツを例に論じる形にするとよいだろう。

スポーツは基本的に勝ち負けや順位を競い合うものなので、どうしても勝利至上主義につながりやすい。勝利至上主義が行き過ぎると、「勝つためには何をやってもよい」と考えるようになり、勝利以外の価値がなおざりにされてしまう。そのため、とくに学生スポーツにおいては、その本来の目的である人間の成長（人格形成、コミュニケーション力・フェアプレー精神などの育成）が妨げられてしまうといったことも起こる。

一方で、相手や仲間同士との競い合いを通じて向上心や連帯感、心の強さなどが育まれるという教育的な意義もある。また、選手やチーム同士の競い合いがあることで競技自体のレベルが向上し、「観るスポーツ」としての価値が上がる面もあるだろう。

根拠としては、以上のようなことを、具体例を交えて説明するとよい。

もちろん、自信があれば、スポーツと関係なく、「競い合いは人間（社会）の本質か」といった哲学的な問題を論じたり、国家間の競い合い（戦争）の問題にまで視野を広げるのもよいだろう。ただ、その結果、「競い合いが行き過ぎるのはよくない」といったありふれた内容になってしまうと元も子もないので、鋭いことを書く自信がなければ、素直にスポーツと結びつけて書くほうがよいはずだ。

善いか悪いか、どちらの立場で書いてももちろんかまわない。一方的に決めつけるのではなく、競い合いのポジティブな面とネガティブな面の両方にきちんと目配りをするのが大切だ。

\* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>